

ウクライナ戦争をめぐる 南アフリカ共産党の立場

2022年4月

目次

1. ウクライナ戦争に反対する南ア共産党らの共同声明（2022年2月26日）
2. ウクライナ戦争に関する南ア共産党中央委員会総会の声明（2022年4月3日）

編集・発行 民主主義的社会主义運動（MDS）理論政策委員会

*この『翻訳資料』は、MDSのホームページ（<http://www.mdsweb.jp/>）から無料でダウンロードすることができます。

【訳者まえがき】

2022年2月24日に開始されたロシアによるウクライナへの軍事侵攻とその後の両国による戦争に対しては、全世界で反対運動が高まりを見せている。しかしそれと同時に、日本だけでなく世界の左翼と平和勢力のなかには、ロシアによる侵略を非難しはする——これ自体は正当なものである——ものの、ウクライナ国家やゼレンスキー政権への無批判な支持や連帯を唱える動きが見られる。かつまた、自国政府によるこの戦争への直接または間接の加担やロシアへの経済制裁の実施を批判しないまま、停戦と平和を抽象的に提唱する傾向も残念ながら見いだされる。

以下に紹介する南アフリカ共産党（SACP：以下の訳文では「南ア共産党」と略記する）らによる2つの声明は、上記のような誤った傾向から一線を画しながら、ウクライナ戦争を2つの周辺部資本主義国家とその同盟国とによる帝国主義的な戦争と規定し、ロシアとウクライナ・NATOのいずれの側にも与することなく即時停戦を訴えている。2つの声明はまた、帝国主義の侵略戦争において利用されるすべての外国軍基地の撤去を訴えている。そして、偏狭な民族主義（ナショナリズム）を拒否することは、今回の戦争の終結のみならず、中部ヨーロッパにおける平和な国際的枠組みを構築するうえでも必要不可欠な課題となっているのであり、2つの声明はこの課題にも正面から向きあっている。

要するに、ウクライナ戦争の深層を分析するに際しては、マルクス主義の階級的な分析が欠かせないのであり、上に記したような南ア共産党らの的確な主張こそが、以下の2つの声明をここで紹介する理由をなしている。

なお、「ウクライナ戦争に関する南ア共産党中央委員会総会の声明」という2番目の翻訳資料は、2022年4月に開催された南ア共産党中央委員会総会による声明文のうちのウクライナ戦争に関する箇所だけを抜粋して翻訳したものである。

1. ウクライナ戦争に反対する南ア共産党らの共同声明

南ア共産党は他国の共産党や労働者党とともに、ウクライナにおける帝国主義戦争に反対する。以下は、南アフリカ共和国と世界のすべての人びとに対して南ア共産党としての立場を示した声明の全文であるが、この立場は、声明の末尾に記載されているように他国の共産党や労働者党と私たち南ア共産党とが共有し支持している立場でもある。

2022年2月26日

資本主義の打倒、帝国主義戦争に反対する階級闘争の強化、そして社会主義のために、独占体とブルジョ

ヨワ階級に対抗する独自の闘いが必要とされている。

この共同声明に署名している共産党と労働者党は、ウクライナにおける帝国主義の紛争に反対する。この紛争は、社会主義の打倒とソ連邦の解体のあとに形成された、諸国人民にとっての悲劇的な状況の帰結のひとつをなしている。ブルジョワと日和見主義者の双方は、何年ものあいだソ連邦と闘い、最近ではその解体 30 周年を祝っている。彼らはしかし、資本主義への復帰が労働者・人民の達成した歴史的な成果を解消し、旧ソ連邦諸国の人民を階級搾取と帝国主義戦争の時代へ連れもどしたのだという事実を隠蔽してきた。その彼らがいまや自らの正体を露わにしているのである。

独占資本主義の枠組みのなかで起こっているウクライナでの事態の展開は、この国の市場・原材料・交通網への統制権をめぐる米国、NATO、EU の計画に、そして資本主義ロシアとの熾烈な競争を背景にしたこの地域への西側の介入に関連している。それらの^{たくら}みを、対立しあう帝国主義列強は包み隠している。彼らはその際、「民主主義の防衛」、「自衛」、「同盟を選ぶ」権利、国連や OSCE [欧州安全保障協力機構] の原則の遵守、あるいはおそらく「ファシズム [への対抗]」などといった独自の口実をもち出す。ところが彼らは、ファシズムを生みだし利用する資本主義システムからファシズムを意図的に切り離すのである。

私たちは、ウクライナにおけるファシストおよび民族主義勢力の活動、反共産主義の策動と共産主義者への迫害、ロシア語を話す住民に対する差別、ドンバス¹の人びとに対するウクライナ政府の武力攻撃を非難する。私たちは、ファシスト集団をふくむウクライナの反動的な政治勢力を、欧州・大西洋列強が自分たちの計画の実施のために利用していることを糾弾する。そして、レーニン、ボリシェビキ、ソ連邦を非難する反共産主義のレトリックを容認しはしない。ロシアの指導部はこの地域における自国の戦略的計画を正当化するためにそうしたレトリックを使っている。しかし、平等な社会主義共和国の多民族的な連合であったソビエト連邦における社会主義の巨大な貢献の意義を、何物も損なうことはできないのである。

ドンバスのいわゆる「人民共和国」の「独立」をまず承認し、その後にロシアの「自衛」、ウクライナの「非軍事化」、「ファシズムからの脱却」などを口実にして行なわれる軍事介入に進むというロシア連邦の意志決定は、この地域の人びとや平和を守るためになされたのではない。この意志決定はむしろ、ロシアの独占体のウクライナ領土内での利益を拡張し、欧米独占体とロシア独占体との熾烈な競争を有利に進めるためになされたものだ。私たちは、ロシアとウクライナの共産主義者および人民との連帯を表明する

¹ ドンバスは、ウクライナの南東部にある地域であり、ドネツィク州およびルハーンシク州からなっている。ドンバスでは、ロシア語を話す住民が多数を占めている。ロシアのプーチン大統領は 2022 年 2 月、上記 2 州のそれぞれについて「ドネツク人民共和国」および「ルハンスク人民共和国」としてのウクライナからの「独立」を一方向的に承認する大統領令に署名した。

とともに、各国のブルジョワジーによって育まれている民族主義との闘争を強化するために、共産主義者および人民の側に立つ。かつてはソ連邦という枠組みのなかで平和のうちに暮らし、繁栄をともに享受していたウクライナとロシアの人民も、他の国のすべての人民も、独占体の利益に奉仕する帝国主義者やその同盟に味方することなど欲してはいない。

私たちは、ブルジョワ勢力によって助長されている幻想にスポットライトをあてる。それは、EUの介入によってヨーロッパに「よりよい安全保障の機構」が実現されると主張する幻想である。「その領域内に軍事計画と攻撃的な兵器体系とをもたない」NATO、「平和を志向するEU」、または「平和な多極的世界」などの幻想は、非常に危険である。これらすべての仮定は現実を無視するものであり、しかも「平和的な帝国主義」が存在するかもしれないという認識を育もうとするという点で、反資本主義・反帝国主義の闘争にとって誤解を招くものである。しかし真実を述べるなら、NATOとEUは他のすべての資本主義的な多国籍同盟と同様に、きわめて反動的な性質をもつ略奪的な同盟である。これらの同盟が人民の利益に仕えることなどありえないのであり、むしろ労働者および人民の権利に反対して、ひいては諸国民の希望に背を向けて活動しつづけるのだ。つまり、資本主義は帝国主義戦争と歩みをともにするのである。

私たちは、—NATOとEUだけでなくロシアにもかかわることだが—自分たちの政府が今回の事態の展開に加担している国々の人民に対し、さまざまな偽りの口実を用いて人民を帝国主義戦争という肉挽き機に誘い込むブルジョワ勢力のプロパガンダと闘うよう呼びかける。そして、軍事基地の閉鎖と海外派兵からの軍隊の帰還とを要求し、NATOやEUなどの帝国主義の画策と同盟から自国を離脱させるための闘争を強化するよう、私たちは呼びかける。

労働者階級と人民諸階層の利益のために私たちは、事態の展開を分析するうえでの基準となる階級的な観点を強め、独占体とブルジョワ階級とに抗する私たち自身の独自の道筋を描く必要がある。それこそが、資本主義の打倒、帝国主義戦争に反対する階級闘争の強化、そして社会主義のために、これまでと変わらず時宜にかなない必要とされていることなのだ。

この声明は、さらなる賛同署名を求めている。

この共同声明に署名した政党：

アゼルバイジャン共産党 オーストリア労働党 バングラデシュ共産党 ベルギー共産党
 エルサルバドル共産党 フィンランド共産党 ギリシャ共産党 クルド-イラク共産党
 アイルランド労働者党 カザフスタン社会主義運動 ラトビア社会党 メキシコ共産党

オランダ新共産党 パキスタン共産党 ペルー共産党 フィリピン共産党 ルーマニア社会党
スペイン労働者共産党 スーダン共産党 スワジランド共産党 スウェーデン共産党
ウクライナ共産主義同盟 トルコ共産党 チェゲバラ運動 共産主義戦線（イタリア）
フランス共産主義革命党 南ア共産党

2. 南ア共産党中央委員会総会の声明

NATO – そしてウクライナとロシアの紛争

2022年4月3日

NATO と呼ばれる帝国主義の戦争手段は、その拡大を通じてウクライナ紛争の主要な原因となっている。NATO はいくつかの戦線においてロシアを包囲しながらも、おそらくは中国を最終的な標的にしている。南ア共産党中央委員会は、ウクライナ紛争のすべての当事者、すなわち NATO ならびにロシアとウクライナに対し、ウクライナでの軍事紛争をただちに停止するよう求めるわが党の呼びかけをくり返しておいた。この呼びかけは、米国の支配する NATO がその帝国主義的な膨張と戦争を停止し、そうした過程を反転させ、それを最終的には終結させることを主張している。

そうであるがゆえに中央委員会は、ここ南アフリカ共和国でわが党が行なった呼びかけをもう一度くり返したのだ。すなわち、ウクライナや世界のどの地域でも帝国主義戦争を拒否するという呼びかけを、である。私たちは南ア共産党として平和を支持するのであって、帝国主義の戦争を支持しない。戦争ではいつも必ず人命が失われ、労働者階級と労働者階級の子どもたちに悪影響がおよぶ。かつまた、ウクライナでの戦争が示すように、戦争は労働者階級と貧しい人びとに対してさらなる別の困難をもたらす。これには、食糧やエネルギーその他の基本的な必需物資の値上げがふくまれる。したがって、影響をこうむるのは戦争地帯の人びとだけではない。世界規模の経済的な結びつきによって、世界全体が影響を受けるのである。

しかし、帝国主義の主要な企たくらみにかかわる事実や、NATO の破壊的な歴史とその膨張主義的な侵略を指摘することは、ウクライナ戦争の当事者のいずれかの側を支持することを意味しはしない。これこそ、ウクライナ戦争の完全な終結と、誰が人権侵害に関与しているかにかかわらずウクライナにおける人権の尊重とをただちに実現することを私たちが強調する理由のひとつをなしている。

NATO はその拡大を通じて軍事的プレゼンスと支配の領域を拡大するだけでなく、西側の多国籍企業による世界経済の独占を定着させることをめざしている。これには、世界のさまざまな国や地域における天然資源採掘その他の産業部門と市場とを管理しようとする策動がふくまれる。

2011年にリビアを爆撃し、大規模な破壊と人命の損失を引き起こした NATO を支えていた勢力を、アフリカ人である私たちがどうして忘れることができようか。リビアへの攻撃が起きたとき、米国の現在の大統領であるジョー・バイデンは副大統領であったのだ。リビアの石油を管理することが、対リビア攻撃の重要な動機をなしていた。

そのうえ、米国や他の NATO 加盟国で軍産複合体を支配している大資本家たちがもつ私的な富は、戦争行為によって蓄積されたものである。これこそ、米国が直接的にまたは NATO の支配を通じて多くの戦争を引き起こした理由のひとつをなしている。ウクライナでの紛争が公然たる軍事戦争に移行したため、米国の軍産複合体の株価は持ち直したのである。したがって、労働者階級と労働者階級の子どもたちが戦争で命を落とすと、軍産複合体を管理し、その取引に資金を提供する大資本家たちは、儲かりすぎて笑いが止まらなくなるのだ。

たとえば、2022年3月の中旬頃にバイデンは、米国が戦争兵器やその他の軍事費でウクライナに送り込んでいる資金の総額が、その前の週に10億ドルに達したと発表した。これは、米国が2014年から2022年の初めにかけて戦争兵器やその他の軍事費でウクライナに注ぎ込んだ27億ドルと比べると、天文学的な増額であると言わねばならない。

南ア共産党中央委員会は、戦争当事者のいずれの側にも与^{くみ}することなく、ウクライナでの戦争の完全な終結を要求した。これに加えて中央委員会は、米国と、同国が覇権を握る NATO という帝国主義の同盟とに対し、彼らが引き起こしている世界中の帝国主義的な戦争を終わらせるよう求めた。中央委員会はまた、彼らが占領した、または軍事基地を建設したすべての国々から、彼らのすべての軍隊を撤退させるよう訴えた。この訴えは、シリア、パナマ、イエメンに対してなされている占領または戦争、キューバに対する違法な封鎖、他国に対するすべての不当かつ一方的な制裁、そしてアパルトヘイトのイスラエル政府によるパレスチナの占領に対する帝国主義からの支援にあてはまるが、それらに限定されるものではない。それらの策動はただちに、無条件に終わらせなければならない。

南ア共産党は公正で平和な世界をめざして闘い、すべての帝国主義戦争に断固として反対する。